

2023年度
(令和5年度)

紋別市における景気動向調査
<第1四半期>

報 告 書

紋別商工会議所

目 次

I. 調 査 要 領

1. 調査時点及び調査対象期間	1
2. 調査対象	1
3. 回収状況	1

II. 概 況

1. 全体の動き	2
(1) 今期の業況	2
(2) 部会別の動向	3
2. 今期の動向	
(1) 今期の売上高・生産高	6
(2) 今期の採算	7
(3) 今期の資金繰り	8
(4) 今期の在庫水準	9
(5) 今期の借入金の金利水準	9
(6) 設備投資の実施状況	10
3. 来期の見通し	
(1) 来期の業況見通し	10
(2) 来期の売上高・生産高見通し	11
(3) 来期の資金繰り見通し	11

III. 各 指 標

1. 各指標	12
--------	----

IV. インボイス制度への対応状況について	12
-----------------------	----

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 2023年7月3日

(2)調査対象期間 2023年4月～6月期の実績および2023年7月～9月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各30社、計150社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回答率
商業+食品業部会	30社	15社	50.0%
水産業部会	30社	17社	56.7%
機械工業部会	30社	16社	53.3%
建設業部会	30社	23社	76.7%
観光・サービス業+諸業部会	30社	20社	66.7%
合計	150社	91件	60.7%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概 況

ー業況はプラスの値から一転、再びマイナスへ悪化。来期は更に悪化の見込みー

1. 全体の動き(業況)

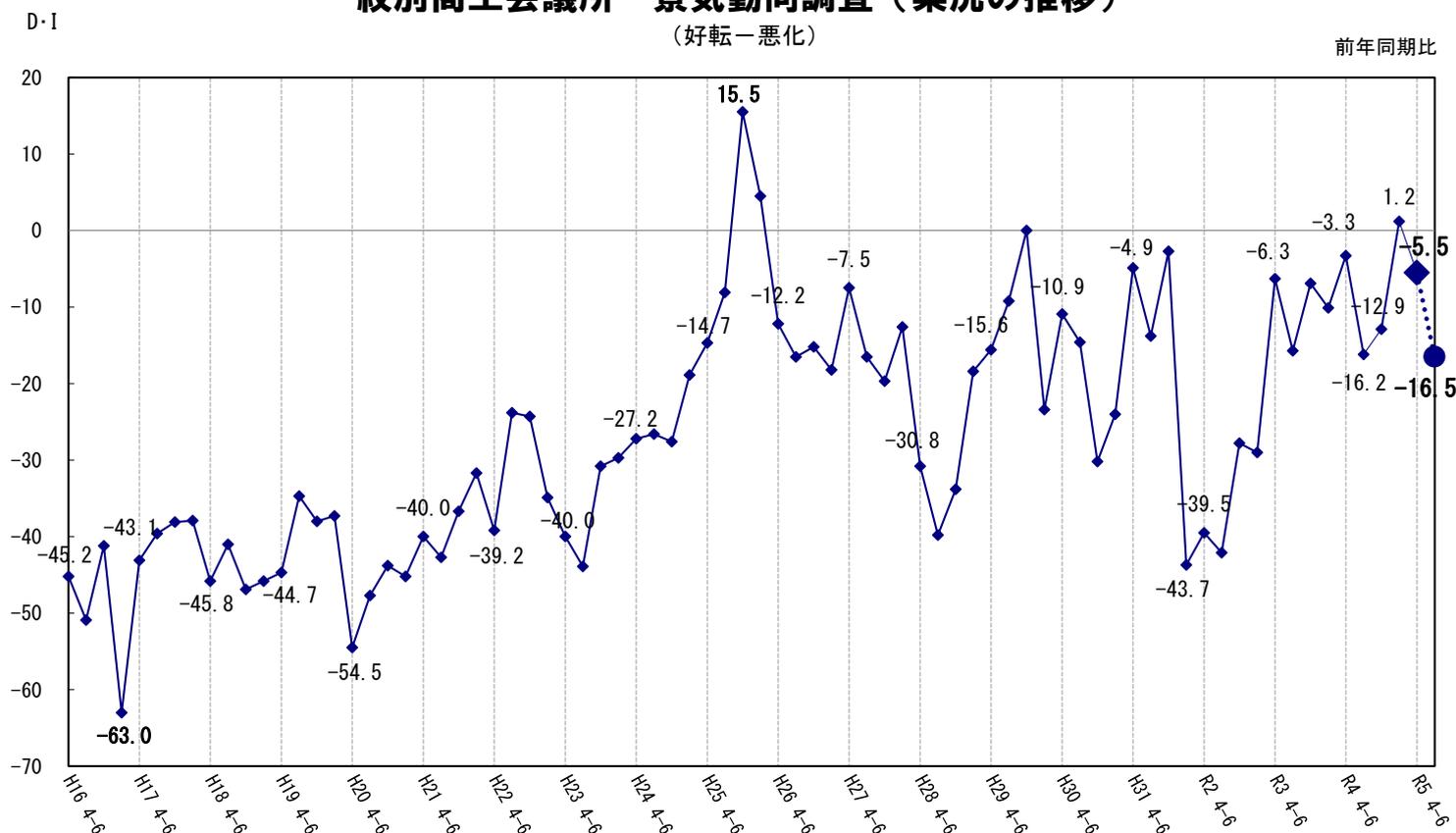
四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(2023(令和5)年4月~6月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比では▲5.5**と前年同期の▲3.3より**2.2ポイントの悪化**となりました。

部会別で前年同期(2022第1四半期)と比較すると、商業・食品業[前年DI値▲25.0→**今期▲20.0**]、水産業[前年DI値12.5→**今期▲17.6**]、機械工業[前年DI値11.1→**今期▲12.5**]、建設業[前年DI値4.8→**今期13.1**]、観光・サービス業・諸業[前年DI値▲17.7→**今期0.0**]となりました。

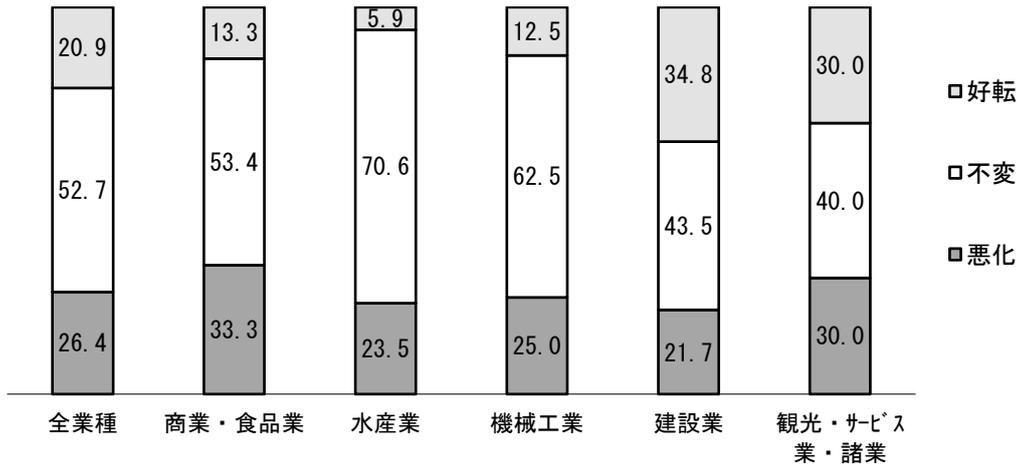
新型コロナウイルスが5類感染症に引き下げられ、経済活動が活発になったことにより道内外からのビジネスや旅行客が回復してきていることにより、飲食業を中心としたサービス業で好転を示す回答が多く寄せられました。また、建設業は市内で公営住宅や看護学校建設等、大規模な公共事業も進んでいることから堅調に推移しています。新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着きと共に、徐々に業況は回復傾向にありましたが、原油価格高騰や原材料価格の上昇により採算の悪化など、厳しい状況となっています。

来期(2023年7月~9月)については、今期と比べて業況判断DIが▲16.5と11.0ポイント悪化の見通しとなっています。

紋別商工会議所 景気動向調査(業況の推移)



今期の業況（前年同期比）



全業種の経営上の問題点としては、「**原材料・材料価格の上昇**」「**仕入れ単価の上昇**」を訴える声が多くなっています。

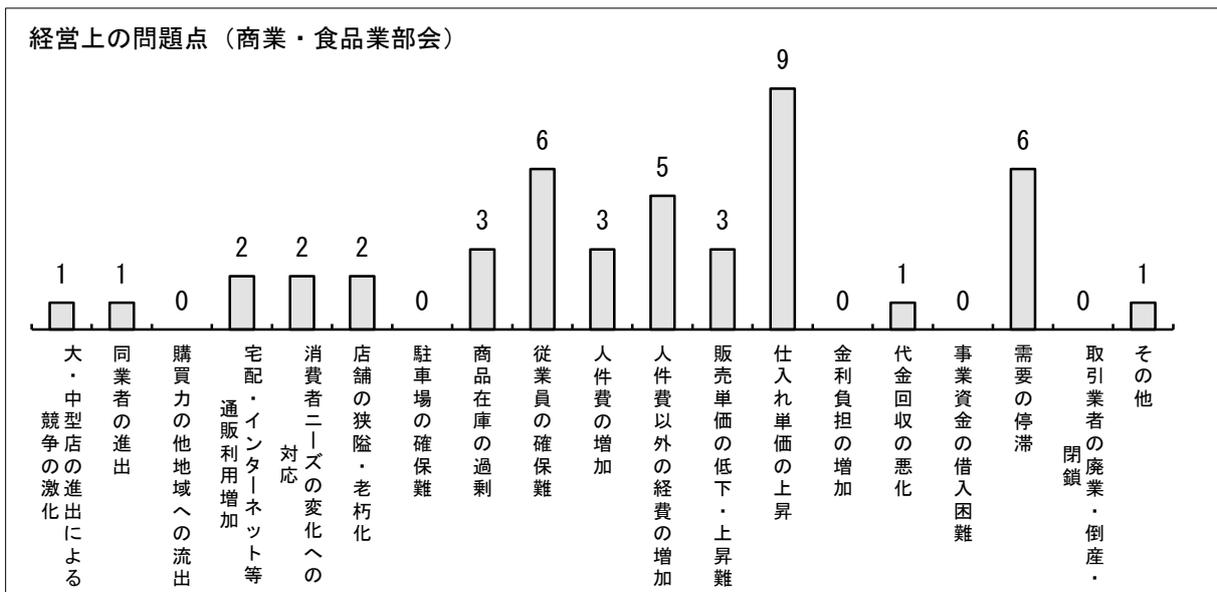
■部会別の動向

【商業・食品業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲20.0（前年DI値▲25.0、来期見通し▲46.6）〕

業況DI値（前年同期比）は、5.0ポイントの改善となりました。交流人流の回復に伴い、観光サービス業が堅調推移し、それに伴って小売業でも業況が改善しています。しかしながら様々な商品の相次ぐ値上げに伴い、採算面でも厳しい状況となっています。来期は今期よりも26.6ポイント悪化する見通しとなっています。経営上の問題点は、「仕入れ単価の上昇」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

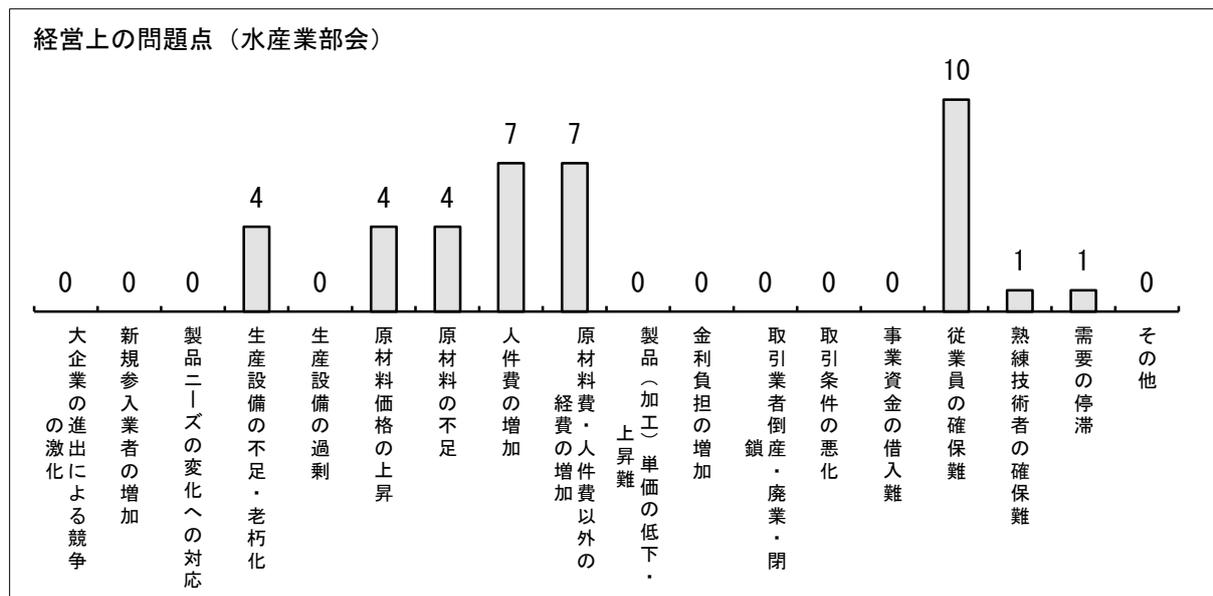
- ・原材料、エネルギー価格がこれからも激しく上昇します。補助金の継続をお願いしたいです。（燃料小売）
- ・商品確保難（衣料品小売）



【水産業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲17.6（前年DI値12.5、来期見通し▲17.6）〕

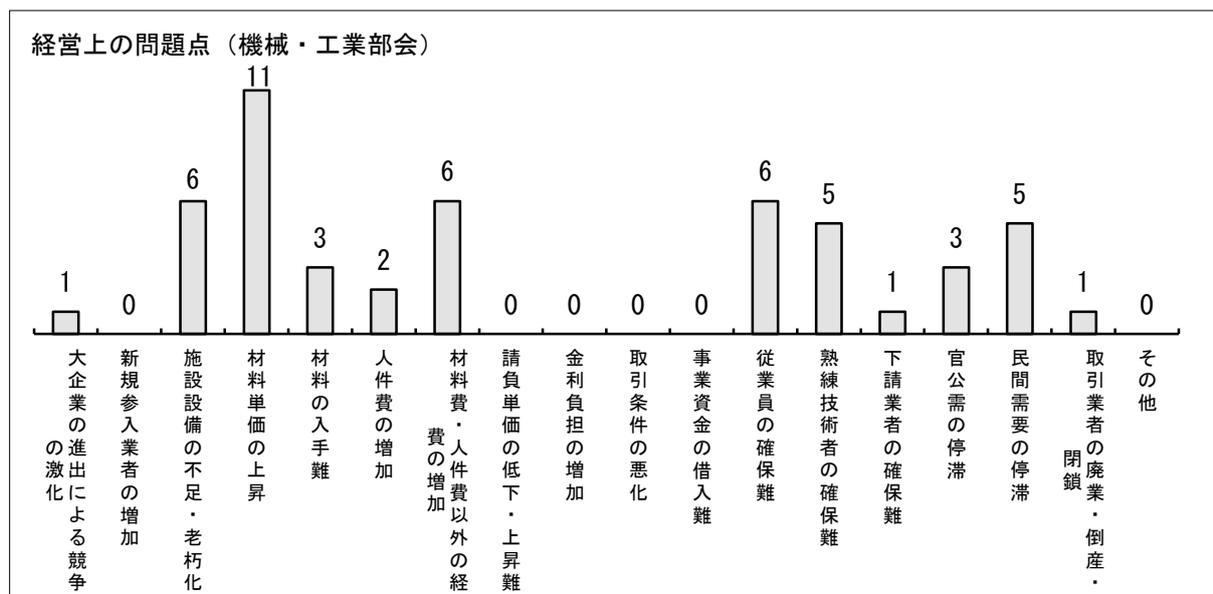
業況判断DI値（前年同期比）は、30.1ポイント悪化となりました。ふるさと納税の返礼品として冷凍ホタテ貝柱（玉冷）を始めとした海産物の需要は依然として高いものの、原材料や燃

料価格の高騰、輸送費の上昇によって業況は悪化に転じました。経営上の問題点としては「従業員の確保難」「人件費の増加」「原材料費・人件費以外の経費の増加」を訴える声が多く寄せられています。来期の見通しは、水産業の最盛期を迎える時期ではありますが▲17.6と悪化する予測となっています。



【機械・工業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲12.5（前年DI値11.1、来期見通し▲25.0）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、前年DI値から23.6ポイント悪化となりました。材料単価の上昇により、製品の加工をしている業種で悪化を示す値が多く寄せられた他、電力や燃料コスト等の上昇が収益を圧迫している他、価格の高騰により需要の停滞を危惧する声も寄せられていますが、春の異動による室内装飾の手入れや最盛期を迎えるの船の整備等、一部業種で好調を示す回答が寄せられました。来期は▲25.0と更に悪化するとの見通しとなっています。経営上の問題点は「材料単価の上昇」を訴える声が多く寄せられています。

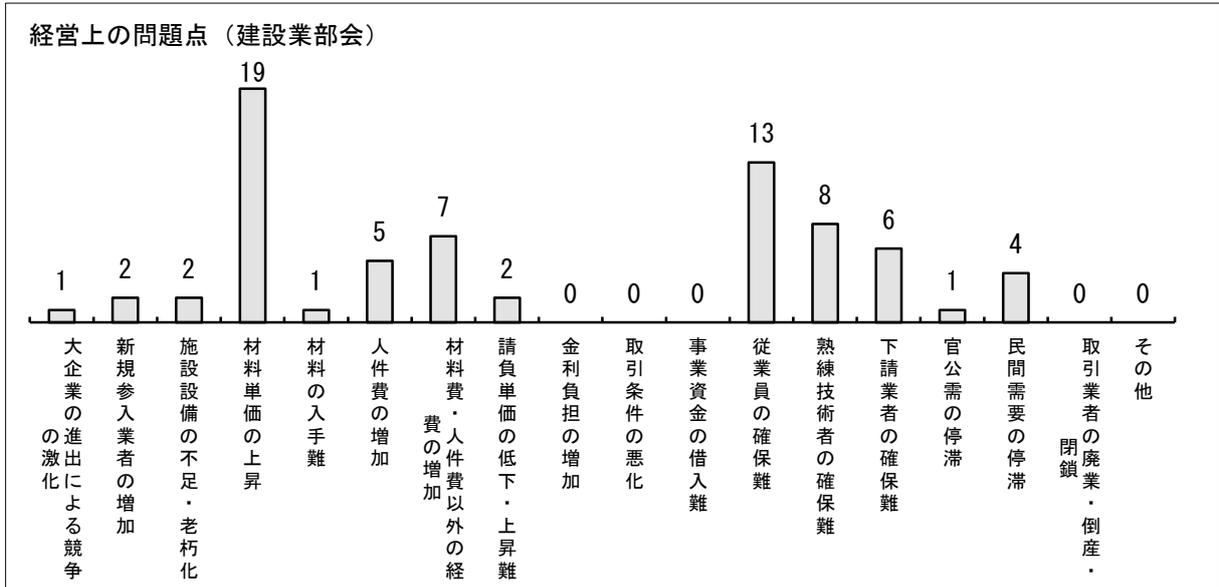


【建設業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）13.1（前年DI値4.8、来期見通し▲4.4）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、8.3ポイント上昇し、好転となりました。材料単価やエネルギー価格の上昇など、懸念材料は他業種と同様ではありますが、土木、建築、電気、板金、塗装と事業者毎に差はありますが、概ね好転を示す回答が寄せられています。来期は▲4.4とマイナスに転じる見通しとなっています。経営上の問題点は「材料単価の上昇」が突出して多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・冬期間の仕事不足（土木工事）
- ・下請業者（特に交通誘導員）の請け手がない（土木工事）
- ・人材確保が大変（管工事）
- ・材料単価の上昇、見積分価格変更の為、決まっていた仕事の延期など（電気工事）

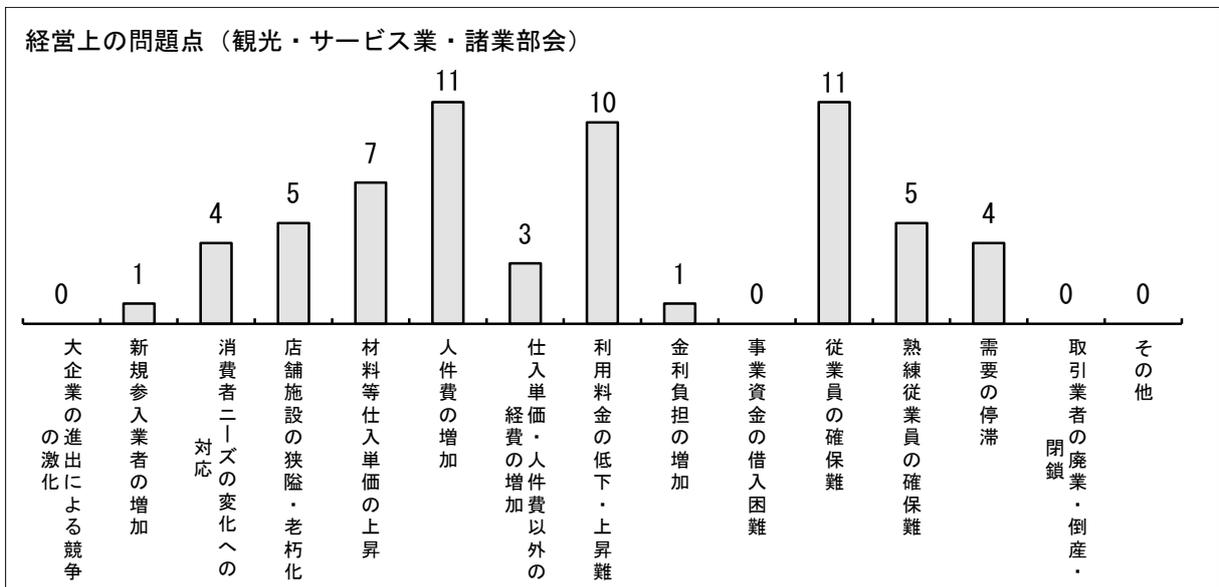


【観光サービス・諸業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）0.0（前年DI値▲17.7、来期見通し0.0）〕

業況判断DI値（前年同期比）は17.7ポイント回復し、0.0となりました。歓送迎会も徐々に再開され、5月から新型コロナウイルスが5類感染症に引き下げられ、交流人口が回復した事により、飲食業や宿泊業で好転を示す回答が多く寄せられました。来期は0.0と業況は今期と同様という見方になっています。経営上の問題点としては、「人件費の増加」「従業員の確保難」「利用料金の低下や上昇」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・同業者の廃業等による、客数の増加に対応できない（人手不足のため）従業員を確保できない（飲食業）
- ・燃料費、諸経費が容赦なく増加し、人件費も毎年増加、しかしながら、運賃収入は微増若しくは変わらず（運送業）
- ・燃料代高騰、人材確保難（一般旅客運送業）
- ・需要の回復（クリーニング）



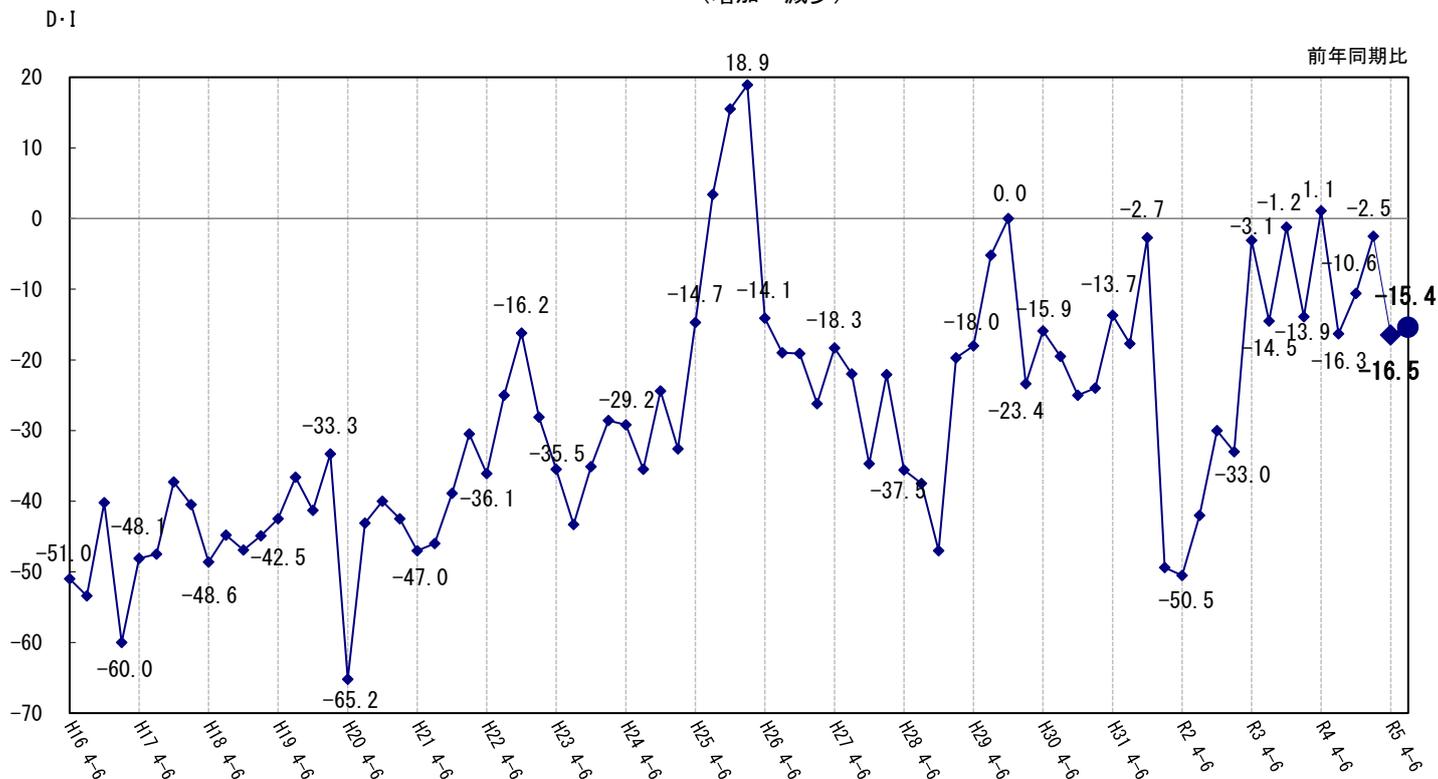
2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

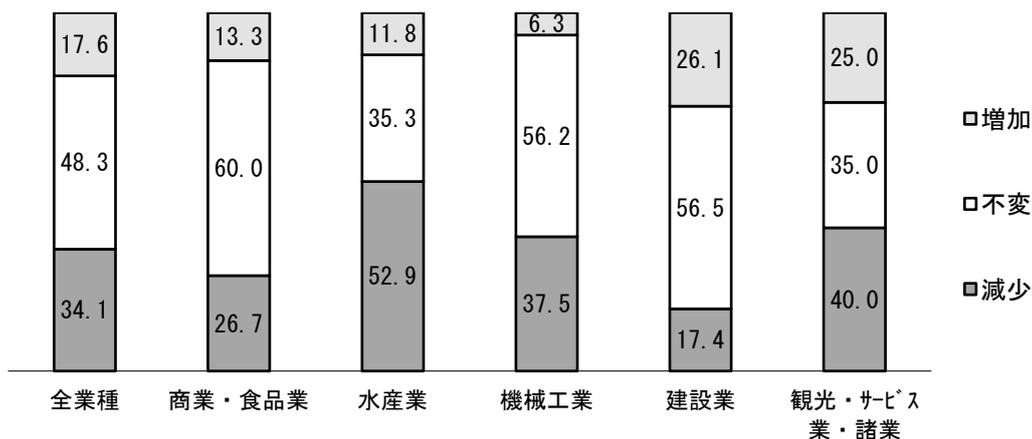
【前年同期比】（令和4（2022）年4月～6月期の水準と比較した今期の売上高）

売上高・生産高推移（全業種平均D・I）

（増加－減少）



今期の売上高・生産高（前年同期比）



全業種平均でDI値▲16.5〔前年同期（令和4年4～6月期1.1）より15.4ポイント悪化〕

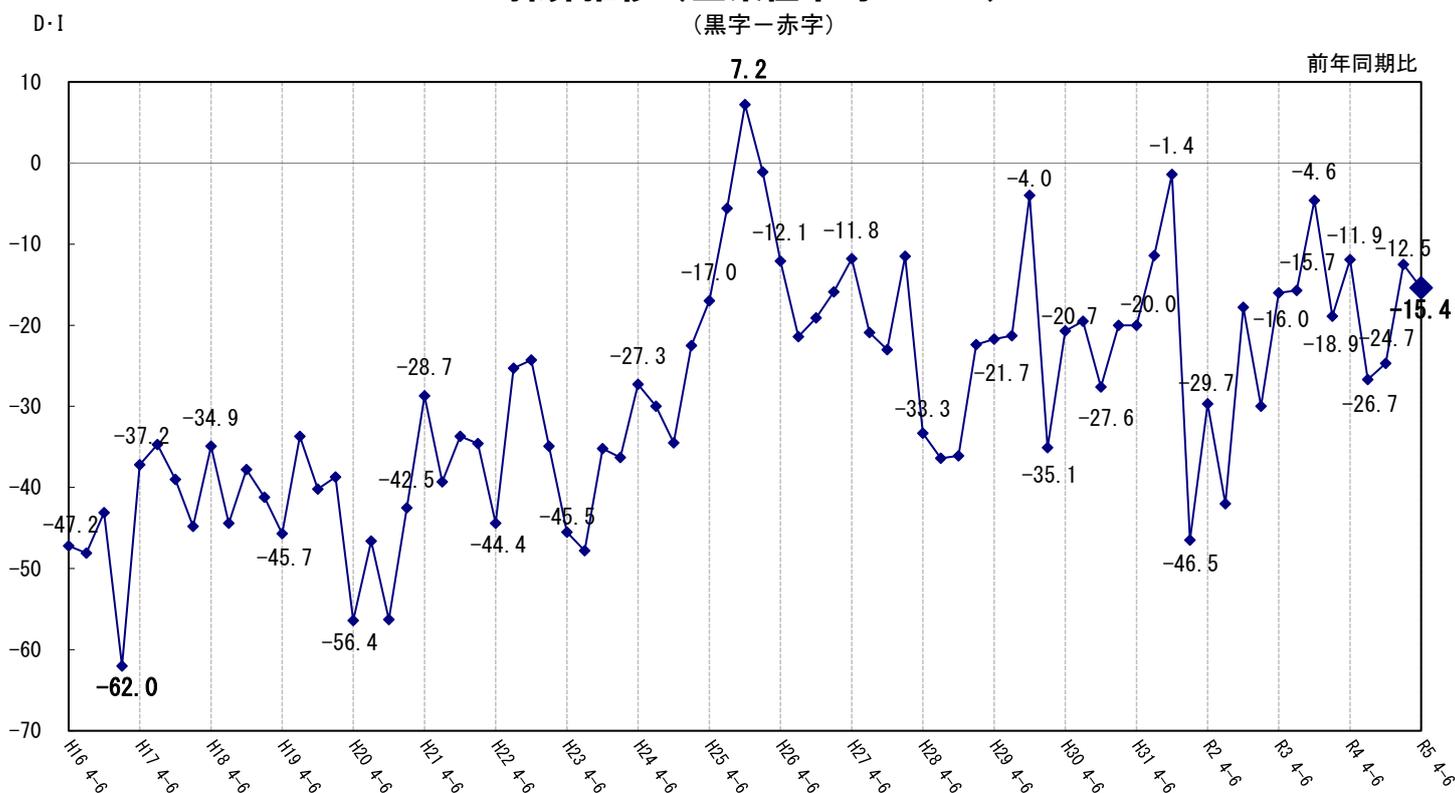
〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲20.0→▲13.4〕、水産業〔前年18.7→▲41.1〕
 機械工業〔前年11.1→▲31.2〕、建設業〔前年9.5→8.7〕
 観光・サービス業〔前年▲11.8→▲15.0〕

(2) 今期の採算

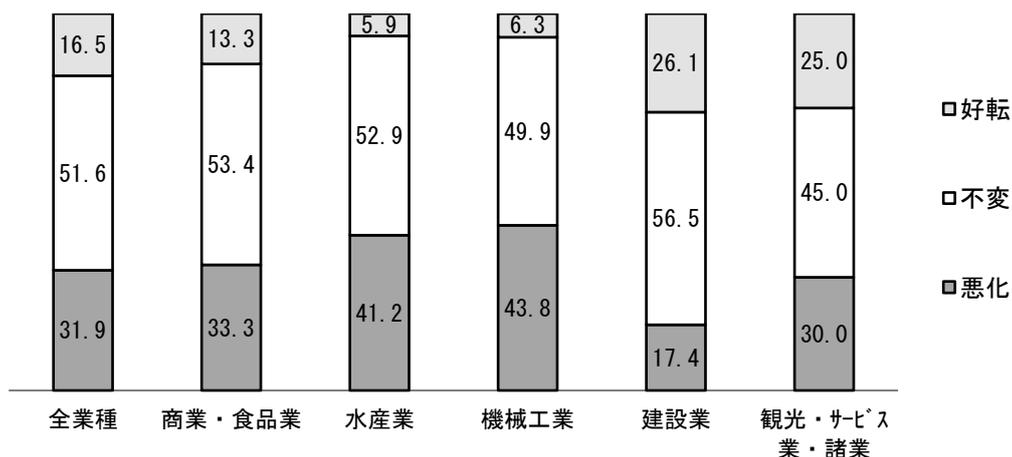
【前年同期比】（令和4（2022）年4月～6月期の水準と比較した今期の採算水準）

採算推移（全業種平均D・I）

（黒字－赤字）



今期の採算（前年同期比）

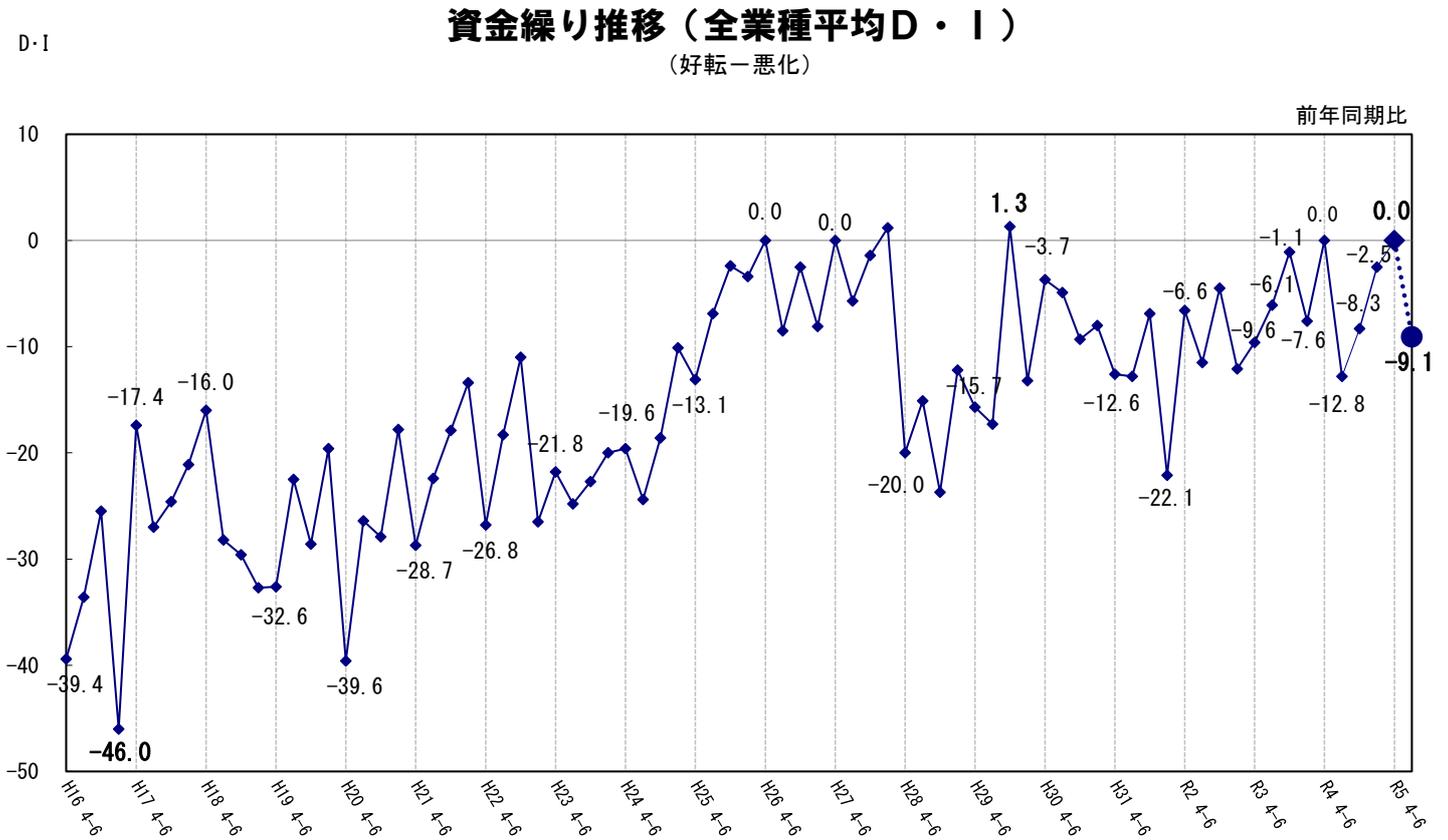


全業種平均でDI値▲15.4〔前年同期（令和4年4～6月期▲11.9）より3.5ポイント悪化〕

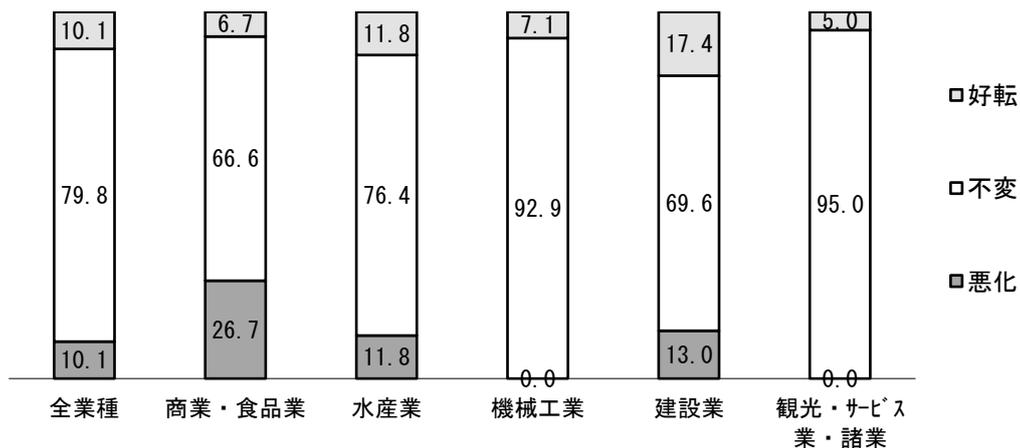
〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲20.0→▲20.0〕、水産業〔前年6.3→▲35.3〕
 機械工業〔前年0.0→▲37.5〕、建設業〔前年▲9.6→8.7〕
 観光・サービス業〔前年▲35.3→▲5.0〕

(3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（令和4（2022）年4月～6月期の水準と比較した今期の資金繰り）



今期の資金繰り（前年同期比）



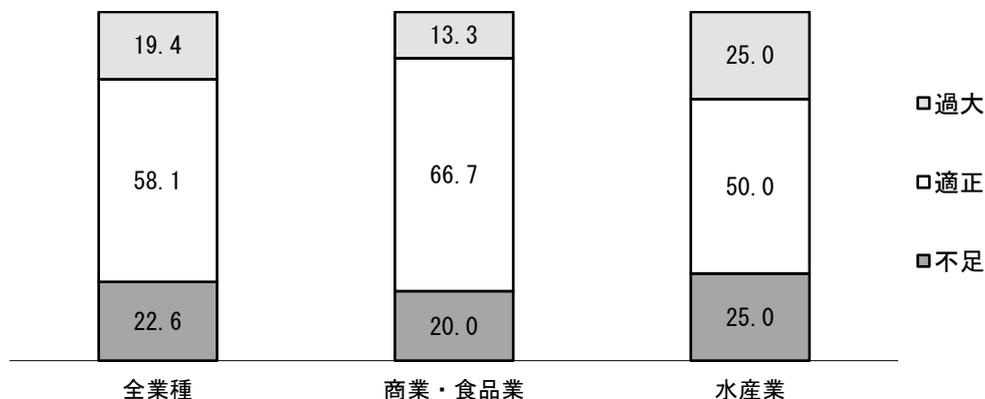
全業種平均でDI値 **0.0**〔前年同期（令和4年4～6月期0.0）と同ポイント〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲31.6→▲20.0〕、水産業〔前年18.7→0.0〕
 機械工業〔前年5.6→7.1〕、建設業〔前年4.7→4.4〕
 観光・サービス業〔前年5.8→5.0〕

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（令和4（2022）年4月～6月期の水準と比較した今期の在庫水準）

今期の在庫水準（前年同期比）



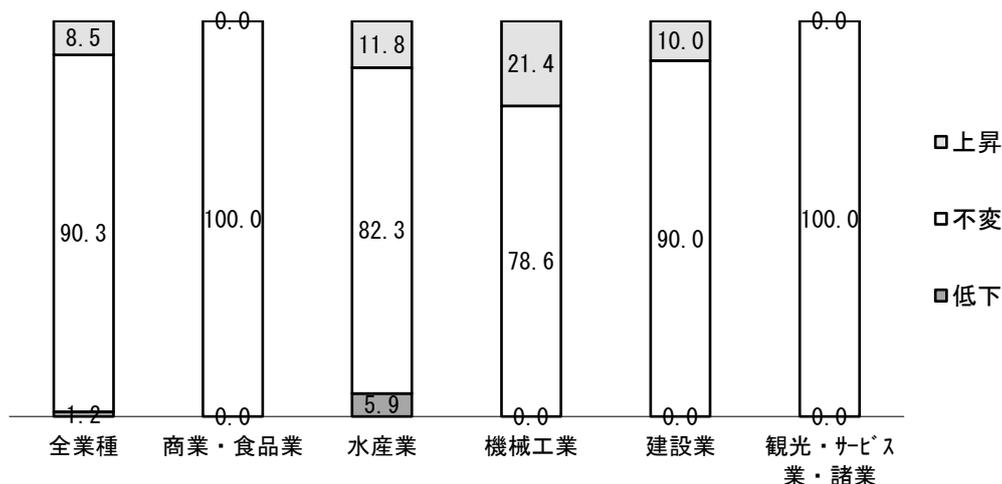
全業種平均でDI値▲3.2〔前年同期（令和4年4～6月期▲11.1）より7.9ポイント不足〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲10.0→▲6.7〕、水産業〔前年▲12.5→0.0〕

(5) 今期の借入金の金利水準

【前年同期比】（令和4（2022）年4月～6月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）

今期の借入金の金利水準

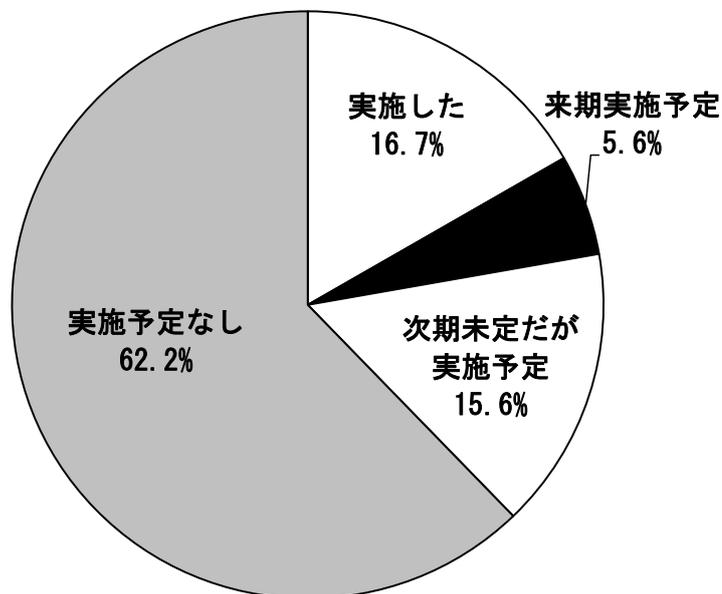


全業種平均でDI値7.3。商業食品業0.0、水産業5.9、機械工業21.4、建設業10.0、観光サービス業0.0。

(6) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

設備投資の実施状況

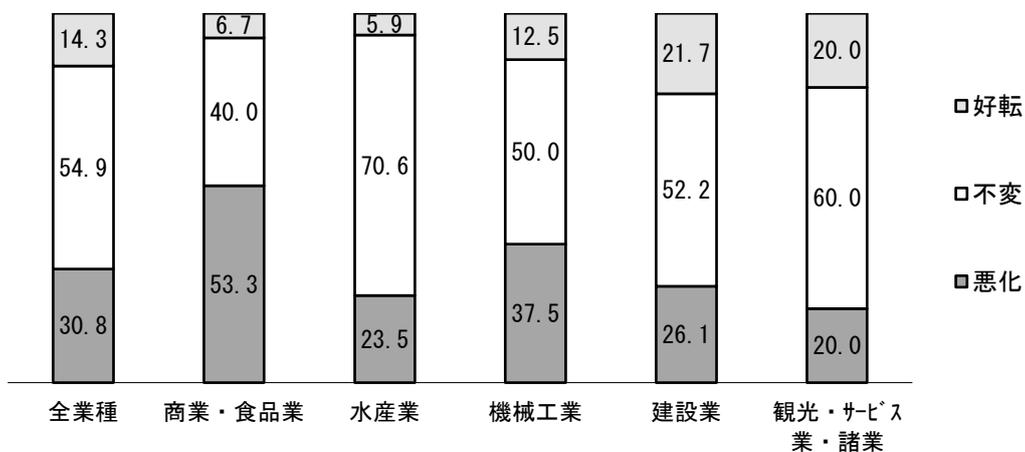


3. 来期の見通し

(1) 来期の業況

【今期比】（令和5（2023）年4月～6月期の水準と比較した来期の業況見通し）

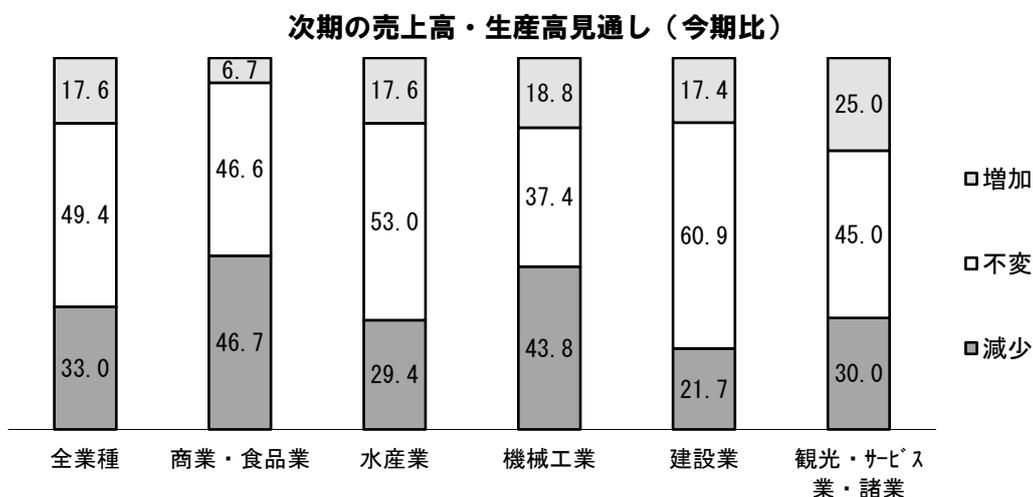
次期の業況見通し（今期比）



全業種平均DI値▲16.5〔今期の業況（前年同期比▲5.5）より11.0ポイント悪化の見通し〕

(2) 来期の売上高・生産高

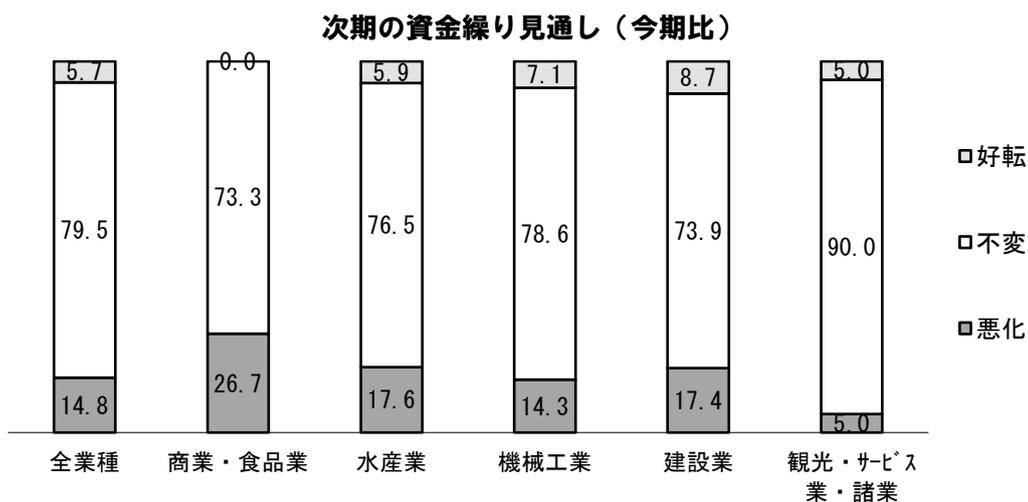
【今期比】（令和5（2023）年4月～6月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）



全業種平均DI値▲15.4〔今期の売上高・生産高（前年同期比▲16.5）より1.1ポイント改善〕

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（令和5（2023）年4月～6月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）



全業種平均DI値▲9.1〔今期の資金繰り（前年同期比0.0）より9.1ポイント悪化の見通し〕

Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サ ー ビ ス ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	▲5.5	▲20.0	▲17.6	▲12.5	13.1	0.0
	来期見通し	▲16.5	▲46.6	▲17.6	▲25.0	▲4.4	0.0
売上高・ 生産高 D・I	今期実績	▲16.5	▲13.4	▲41.1	▲31.2	8.7	▲15.0
	来期見通し	▲15.4	▲40.0	▲11.8	▲25.0	▲4.3	▲5.0
在庫 D・I	今期実績	▲3.2	▲6.7	▲0.0	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	▲15.4	▲20.0	▲15.3	▲37.5	8.7	▲5.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	0.0	▲20.0	0.0	7.1	4.4	5.0
	来期見通し	▲9.1	▲26.7	▲11.7	▲7.2	▲8.7	0.0
借入金 金利水準 D・I	今期実績	7.3	0.0	5.9	21.4	10.0	0.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

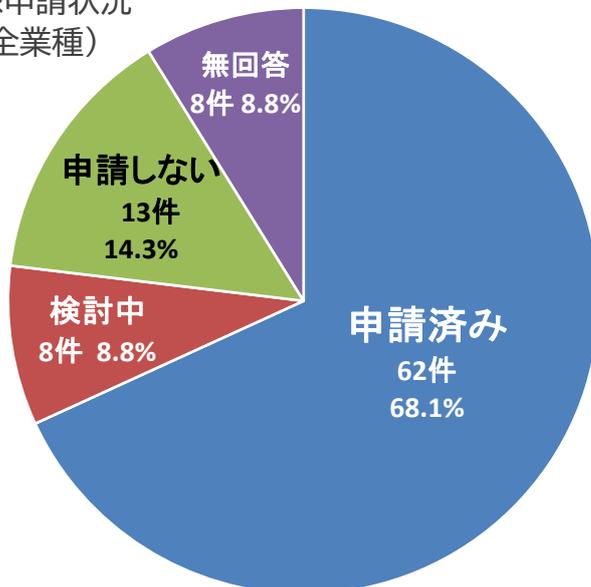
※借入金金利水準D・I値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。

Ⅳ. インボイス制度への対応状況について

本年10月よりいよいよ施行となる「インボイス（適格請求書）制度」への対応状況について、令和4年10月以来、2回目となる調査を行いました。

今回の調査では、申請状況は「申請済み」が68.1%（61件）、「検討中」が8.8%（8件）となり、合わせると76.9%がインボイス制度への対応する事が窺えます。

登録申請状況
(全業種)

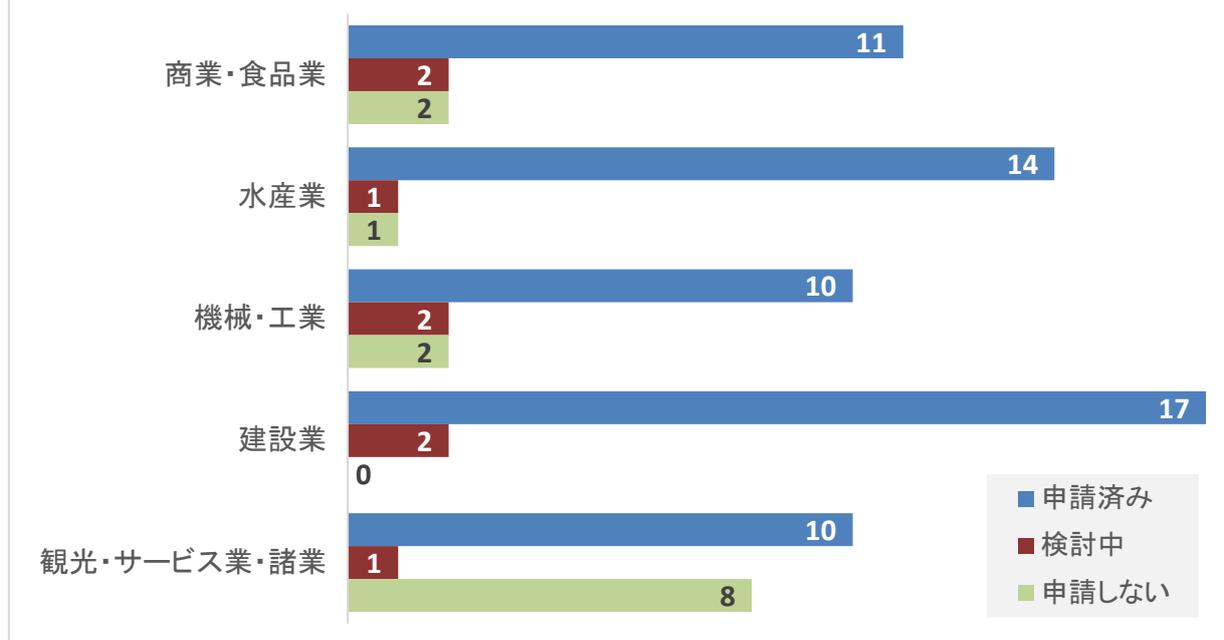


「申請済み」の回答を業種別に見ると、建設業が17件と最も多く、次いで水産業が14件となりました。

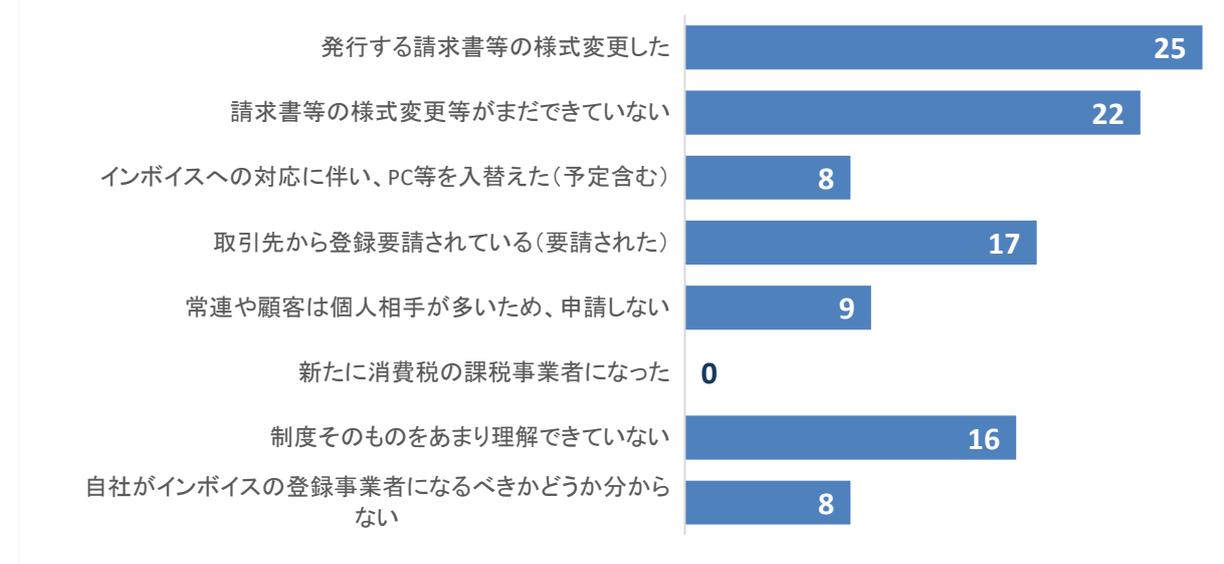
令和4年10月に同様の調査を行った際、「申請済み(25.6%)」と「申請予定(34.9%)」となっており、2つの回答を合わせて60.5%という結果でした。この結果から見ても、インボイスの登録が進んでいる様子が窺えます。(前回調査時、「検討中」の項目なし)

今回、「申請しない」との回答は14.3%となり、顧客の大半が個人消費者となる「観光サービス業・諸業」での回答が多く寄せられました。

インボイス登録申請状況（業種別）



懸念事項等（全業種合計）



懸念事項等で、商業食品業、建設業で「取引先から登録要請されている（要請された）」との回答が5件と、他の業種よりも多くなりました。

インボイスへの対応に伴う会計ソフトのバージョンアップ等で、古い機種では対応が出来ないことからパソコン等を入替えた（予定も含む）との回答も8件となった他、請求書等の様式変更で、経費負担の増加が生じています。

そうしたインボイス制度への対応において生じる経費負担を軽減するため、「IT 導入補助金」や「持続化補助金」といった国の補助制度もあります。IT 導入補助金では事前登録された IT 導入支援事業者の支援による申請であることから、事前登録をしていない地元業者から機器の購入した際に対象とならない場合があります。また、持続化補助金では免税業者が新たに課税事業者となる場合に補助の対象となることから、法人や小規模事業者でも課税事業者の場合は対象外になるなど、多額の費用負があるにも関わらず、補助金を申請出来ないといった相談も寄せられています。